慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	資本制発達の四大特徴
Sub Title	
Author	高島, 佐一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1916
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.10, No.1 (1916. 1) ,p.75- 88
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19160101-0074

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資本制發展の四大特徴

高島佐一郎

（一）武裝せる經濟組織と資本制發展の四特徴
（二）企業經營の集中と株式所有の分散
（三）企業の縱斷的合成
（四）企業の橫斷的合同及び聯合
（五）勞働組合に對する企業家組合

一

歐洲交戰國民の經濟生活は今まや軍國化せられ、其の產業組織亦た今まや武裝したり。さはれ、斯かる武裝せる經濟生活、言を換ふれば、長久の史的發展を踐んで大成せられたる資本主義的經營其の光彩を薄くし、企業と利潤との制度太だしく其の運營を緩うしたるの經濟生活は、戰ひ戡まるの日、そもいかになりゆくべき！即ち世上多數の想像するが如く私企業の戰前狀態に復歸すべきか、將た國家社會主義による經營方式が權柄を揮ふべきか、將た又た近時ヤッフェ敎授が絕叫したりける如く、經濟上にても、國家自らが（巨大なる一人格）der Mensch im Grossen となり、市場を世界に拓かず求めずして絕えず武裝し、以て世界經濟の主義を顚覆するに至るべきかは、神ならぬ何人も逆睹し得ざる所なるべしと雖も、フィッシャー敎授の謂はゆる戰後の經濟界が國際主義の橫流する壇場たるべしとの所說に同じ得ざると同時に、ヤ氏の力說する一國民經濟が國際的交通圈外に孤立すべしとも亦た覺えずして、眞理は夫れ兩極端の中間に存するなきかを推斷せざる能はざるなり。而かも其の論據は如何といふに、英國の如きは謂はゆる大英帝國建設の場合を別として、孤立經濟の到底實行すべからざると同時に、獨逸の如きに至りては、若し戰ひ屈辱に終はらば、或ひは孤立經濟の牙營に據り、以て十年嘗膽の擧に出づる能はざるを斷言し難きものあるによる。

さはれ、ヤッフェの確信する如く、這般の如き戰亂が將來絕えず繰返へされ、若くは繼續すべきことを眞なりとすれば、經濟生活の軍國化は夫れ論理必然の要求たるべけんも、苟くも此の前提にして謬れりとすれば、同氏が近く、「社會學及社會政策雜誌」Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik. の「戰爭と經濟」Krieg u. Wirtschaft なる題下に公刊せられたる戰時卷第三卷（一九一五年三月）中に獅子吼したりける一雄篇「わが經濟生活の軍國化」Die Militarisierung unseres Wirtschaftsleben. の結論は到底、承認せらるべきにあらずとす。是れ曾に獨り個人主義の英國民族とのみいはん、苟くも「利己的感念が社會的感念と同じく、永久に人性を支配すべき要素」たる限り、愛國心の深き、縱ひライン河床の如くなる獨逸民族と雖も、永く耐ふる所にあらざらん。又た縱ひ國民を擧げて私企業撲滅の經濟組織を支持しえたりとするも、市場を世界に求めざるの經濟は「效程高き生產」を行ひ難く、「利己的感念」を壓迫するの經濟は亦均しく高き生產效程を庶幾する能はざらん。

要言するに、變局的經濟組織はどこまでも變局經濟組織にして、之を以て、永く平局的產業組織に代ふる能はず、猝かに長久の時間と努力とが生める常局的生產營利組織を搖がすべからざるなり。

果して然らば、先進國が戰前に到達し得たりし、平時の產業組織の狀況研究、豈輕んずべけんや。蓋し戰後企業組織の發展は、必ずや之を出發點となすべければなり。

近比予は會々近世英國の所有する最大の經濟史家アッシュレー敎授が、戰前に於て、今の敵國たる漢堡植民協會に於て講演せる「英國の經濟組織」The Economic Organization of England.

April, 1914. を讀了し、略々英國の產業組織の長短を窺ひ、最近時倫敦大學のヂクシー博士が其の著「商事經營法と戰爭」Business Method and the War. 1915. に於て、獨逸產業組織の長を揚げて、自國實業家の研究心盛んならざるを難じ、晦へられざるものゝ救はれざる所以を戒めたるの、偶然ならざるを知れると共に其の最終章「株式會社主義及び近世資本主義の發展」を閲みして、今更ながら、右書公刊の當時、「エコノミック・ヂャーナル」誌上に批評し、此の一章を激賞してアッシュレー教授の史眼炬の如きを道ひ、壓卷の大文字是れに盡きたるを斷じたりし、倫敦大學の經濟史講師たる某女史の批評が人を謬らざらしめたるを承認せざる能はざりき。即ち近く、既述ヤッフェ教授の愛國的の一雄篇に接して感慨復た新たなるものあり、茲に之を紹介することゝなせり。

アッシュー教授は、「企業の內部經營上の法則に從ひて運動し來たれる、英國の近世資本主義の發展」たる、爾餘の世界の大製造業國に於けると全然同一行程を採れるを道ひ、其の運動が四大特徴を表現するを約言して謂ひけらく、

（一）勞働に比例して固定資本の使用の益々大なるを致し、隨つて工場數の增加が勞働者數の增加より緩漫なるを示せるの、企業經營上の集中　Concentration.

（二）企業の縱斷的合成　Integration.

（三）企業の橫斷的合同　Combination.

（四）勞働に對抗せんとするの企業の集合的行動　Entrepreneurs' Collective Action in the face of Labour.

斯くて以下、是等特徴の各々に就き、主もに英國に於ける產業組織事情を舒し、餘力、まゝ伸びて歐米諸國の事情に及びたり。いで譯筆を役してア教授の所論を窺はん。

二

先づ企業經營の集中に就いて說かんに、獨逸及び合衆國には夫れ夫れ政府の調査報告ありて其の現況を明徴にするものゝ備はれるに拘らず、英國には斯かる統計類の存するなし。英國には曾て、かの衣服仕立業の如き、工場組織を以て營まれずして、却つて第十八世紀式の家內工業制度にて經營せらるゝ多數產業が殘存するを發見するのみならず、また「ギルド」（同業組合）其のものは已に久しき以前に消滅したりしも、舊き「ギルド」式產業の特徴を保存する多數小手工業者すら存在するなり。加之、其の生產の初期階段に於ては、小工場にても立派に經營し得らるべき、新しき多數の產業も亦た絕えず發生しつゝあり。他方工場制度も亦た、曾て半世紀前、そが凡ゆる產業組織を席捲し終るべきを豫想せられたりし如き、完全なる支配權を享有することなきなり。さりながら英國の重要產業に於て、工場制度若くは大工場制度が最も卓越せる企業組織の形態にかゝり、而かも是等の工場若くは製造所の規模が愈々大なるを加ふるに伴ひ、益々尨大なる資本を固定せしむるに至る。

斯くして固定資本の流動資本に對する割合が漸次增加するや、即ち一八四四年に於て紡績工場に投下せられたる全資本額が、勞銀の全年支拂總額の約二倍し計算せられしに對し、一八九〇年には勞銀支拂年總額の五倍に進み、之と同時に一工場に於ける紡錘並に一工場に於ける織機の平均數も亦た、一八九〇年に於て少なくとも五割方の增加を示したり。而かも斯の如きは、其の他の重要工業の或るもの、例へば製鐵及び大機械製造業に比較すれば、此の企業經營の集中てふ方向に對し、極めて緩漫に推遷したる企業たるにすぎず、蓋し紡績工場は之が建設及び機械裝置に要する經費が、比較的に僅少なるものなればなり。斯くて一八〇〇年に比較し

一九〇〇年に於ける鎔鑛爐數は、約四倍の增加を示せるにすぎざるも、鎔鑛爐一基の平均生產高に至りては、殆ど十五倍の增加を示したるを見る。さりながら工場の平均規模に於ける此の增大擴張、詳言すれば其の工場數に於ける減少を伴ふ、否な寧ろ少くとも比較的增加を伴はざるの、工場規模の平均擴張たる、必ずしも決して之が資本所有者に於ける集中を伴ふものにあらず。斯くして英國に於ける麥酒釀造所數は一八五〇年に於ける四萬四千より、一九〇三年に於ける五千乃至六千に減少したれども、最近千八百九十年臺に於て、釀造所の多數が組織を變更して株式會社と爲れるが爲めに、其の株式所有に於ける廣汎なる普及を促がし、以て一九〇三年中、英國の五大釀造會社に於ける株主及び社債券所有者に就てのみ見るも、約二萬七千人を數へたり。殆ど同時に於て、英國縫糸製造會社の資本は一萬二千人に分寓し、最細手紡績會社の株主は五千乃至六千人を算し、リップトンの大紡績會社は約七萬六千人の株主を有したり。さはれ、株式組織企業に於ける資產の擴散 diffusion of property in joint-stock undertakings たる、通常動もすれば想像せられたるよりも、實際上遙かに少數なるべきを論せらるゝことあり、蓋し資產家が大抵、數會社の株式を所有するを通例とするは眞ならん。且つや株式化せる資產の所有者は全英國を擧げて五十萬人を上ぼらずとするの積算を論證すべき、或る實證の引用せられたるものにも接すべきなり。然れども是等株主の大多數が、平均數人の家族を扶養するの男子たることを省察するときは、此の內輪に見積られたる概算すらも、世上或る一派が高調する如き、產業的資本が專ら富豪に依りて所有せらるとするの推論とは、如何に相異なるものあるやを示すに於て、蓋し餘師あるべきを信ず。寔とに產業上の中等社會 industrial middle Class なるものは今や新しき形態となりて現はれたり。即ちそは主もに會社企業の社員及び株主より來る。思ふに英國の大工業都會の郊外住所地域を散策するものは、必ずや、曾てマルクス及び其の學派の豫想したるに反し、中等階級者が何等消滅するの跡なきを發見せずんばあらずとす。

三

資本制發展の第二の特徴にして、第十九世紀最後の廿五年間に出現したるもの、是れ之を企業の縱斷的合成なる現象となす。此の傾向は製鐵、製鋼、機械製造及び造船業に於て、殊に著はる。さらば縱斷的企業合成とは何ぞや、曰く曾て從前に於ては全然各異の企業によりて營まれ、斯くて集成せられて始めて最後の結果を齎らしたりし、其の經營作業の全階段を、擧げて單一なる事業の下に合するをいふ、例を製鐵鋼に假れば、鋼鐵の製造及び利用中に包括せらるべき作業の全組織、即ち下は鐵鑛及び石炭の採掘より、中ごろ製鐵所及び製鋼所を經て、結局、鐵器、機械若くは船舶の生產に至るまでの、全過程を盡して、單一の事業若くは企業の下に集中するの組織を指さすものなり。此の方向に於ける權輿は、嚮きに合衆國に於けるカーネギー及び獨逸に於けるクルップによりて爲されたりしが、一八九〇年臺に至り、英國も其の後れたる行程を恢復し、斯くて一打以上の巨大なる集業的企業は、或ひは實際の合併てふ形式により或ひは株主權過半數の買收てふ形式によりて、發生するの機運を促がせり。

斯くしてシェフィールドのヂョン、ブラウン會社は、夙に炭山及び鐵鑛坑を所有し、製鐵所及び製鋼所を經營し、而して甲裝鐵板、機關鐵板を生產し、凡ゆる鋼鐵材料を製造したりしが、遂に軍艦「タービン」式船舶を建造するのクライドバンク造船會社を合併したり。又た始め製

鋼及び巨砲製造を專業としたりし、ニューキャッスルのアームストロング會社は、一大機械製造業を併合し、後ちまた一大造船所を買收し、更に、有名なる機關車及び船用機關製造所と持株共同に出で、次いで英國最重要の水雷艇製造會社の經營實權を掌握し終れり。之と殆ど時を同じうして、南ウェールス及びスタッフォードシャーに於けるグエスト、キーン及びネッフィールド會社は、其の單一經營の下に、炭鑛、鐵鑛坑、製鐵所、製鋼所並に止め螺旋、繋ぎ釘、大螺釘の如き鐵器製造の全過程を集合したり。而かも斯の如きは、單に其の模範的なる數例を示せるにすぎずとす。

斯かる縱斷的合成運動に於ては、發端は下揭二方面の一より出立す、曰く、比較的精製品の製造より出發して、之に要する材料に對する羣固なる掌握を確保すべく、經營過程を逆進すること。曰く、原始的生產より進んで、之よりする製品を販賣すべき一層確實なる進路を把握すべく、經營行程を前進すること、即ち是れなり。而かも其の何れの場合に於ても、結果が同一に歸すべきは說くを須ゐざるべし。

四

資本制發展の第三特色にして、之も亦た第十九世紀の最後の廿五年を特徴したる資本主義の一表現たるものは、同種製造業に從事する諸會社間に行はれたる、獨占的企業合同に進まんとするの傾向を擧ぐべし。之を橫斷的合同と名づくるは、第二特徴が異種の製造業を合成したるに對し、之は同種企業の合同及び聯合を總括するものなればなり。獨占的 monopolistic なる語を用ふる、必ずしも決して惡き意味に於てするものにあらずして、唯だ單純に斯かる結合企業の主たる目的が、供給を制限するによりて價格を左右し、更に進みて市場を獨占せんとするにあるを、示さんとするにすぎず。而して由來、自由競爭 free compettion なるものに固有の神聖と眞理との存するにあらず、又た獨り自由競爭によりて決定せられたる價格か、之か生產に從事する勞働者の最大の利益を害ふとの數々なる場合あるを想へば、單に獨占なる語を聽きて必ずしも猝かに驚駭するにも及ばざるべし。げにや結合企業の發企人は數々其の動機として「結合的大企業の經濟」economies of combinations を論證し、そが一般公衆にも必ずや利益を齎らすべきを謂ふ。されど大多數の場合に於て、こは實際の事實に徵し、纔かに從屬的動機たるに過ぎずして、眞の動機に至りては、自由競爭の絕止が自づから之を可能ならしむべく期待せらるゝの「一層高き市價」higher prices を齎らさんとするにあり。さりながら之と同時に、必ずしも鮮少なりとせざるの經濟が、數々之によりて庶幾せらるゝことは、之を認めざるべからず。競爭的取引のものたる、種々の方法、殊に廣告及び販賣に要する費用を負擔せざるべからざれば、一般公衆の需要に應ずるに、必然的に高價なるべき失費を含まざるを得ず。されば一面消費者に轉嫁すべき費用の低減と、他面生產者に歸寓すべき利潤の增大とは、此の獨占的經營が齎らし得る所たらずんばあらざるなり。

按ずるに大不列顛國に於ける結合企業も、米獨國等と同じく二形態の一を執れり、即ち一は協約 agreement の形式にして、他は完全なる合併 amalgamation てふ一層組織的なる形態なり。而して前者が總括して企業聯合 kartel, cartel と稱せられ、後者が企業合同 trust, fusion と總稱せらるゝは、世人の普ねく知る所の如し。前者中、最も興味ある一實例は、吾人之を鐵道軌條の製造及び販賣を支配するの協約に發見す、蓋しこは、廣く英國合衆國獨逸白耳義佛蘭西露西亞の凡ゆる製鋼業者間に締盟せられたる國際的同盟上に立脚し、各國の同盟企業は各自の國內

市場獨占を認めらるゝと共に、世界の爾餘諸國の市場に就き、明劃なる獨占的販賣を分配せられ、相互相侵かすことなからしめたるものなればなり。之と同樣なる國際的協約は今ま亦た、煙草業にも見出され、亦た更に、數々廢却せらるゝことあれども、北太西洋汽船諸會社の間にも發見せらる。次に後者即ち合併中、主もなる實例は表面上、聯合會 associations と呼ばるれども、實は一八九八年乃至一九〇〇年間に亘りて纖維工業の數種類に於て創成せられたる、眞に且つ完全に合併せられたる諸會社の結合企業中に見出さるべし。右は實に多數の重要大會社を包括す。斯くて更紗形置業聯合會は八百二十五萬磅の資本金を、細手紡績業聯合會は七百二十五萬磅を、漂布業聯合會は六百七十五萬磅をブラッドフォード染色業聯合會は四百七十五萬磅の資本金を有す。而して其の各場合とも、合併企業本部が各事業の全支配權を掌握するは論なし。さりながら右は纖維工業の支系に屬するものに外ならずして、其の本系たる普通の紡績業及び織布業に至りては、未だ之に與らざるを見るべし。されば斯くして紡織業の主もなる從屬的企業の全體が、今や擧げて結合企業化せられたる間に立ちて、紡績業及び織布業てふ纖維工業の二大方面に至りては、尙ほ未だ殆ど無制限なる自由競爭に放任せられつゝあるを看過すべからず。

思ふに、英國が其の自由貿易政策 free trade のために完全に企業合同の大渦に超然たり得ることはかの「トラスト」と保護貿易とを嫌忌するの、舊き英國經濟學者及び實際家の確信する所なるが如し。さりながら、縱ひ英國は今日まで自由貿易國として單り孤壘を守り得たりしとは云へ、もはや全然「トラスト」を避くる能はず。そが果して有利なりしや否やは知らざれども、英國が久しく踏襲せる商業政策が、多少「トラスト」の成立を遲延せしめ、且つ之を不安全ならしめたることは、疑ひもなく眞なり。蓋し「トラスト」の成立が保護貿易政策により助長せらるゝは、明かなればなり。然れども此の問題中には、他にも重要なる要素あれども、就中最も肝要なるものは、有效なる生產を目的とする技術的の需要を揭くべし。抑々近世的工場の建設費が愈々增加して底止する所を知らざるに從ひ、競爭會社數を減少せしむべき激烈の競爭は絕えず行はれつゝあり。而して或る種類の工業が少數の大會社によりて經營せらるゝに至るや、是等の少數大會社が協約を締盟するは、益々其の容易きを加ふ。例へば二十會社英國內に併立して鐵道軌條の製造に從事するときは、其の間の協約は永久たるを得ざりしも、其の數が九箇に減少したる今日に至れば、渠等の聯盟大いに鞏固なるを致せるを發見す。而かも仍ほ進みて其の社數が片方の指にて數へらるに至らんか、渠等、必ずや競爭に分立するよりは、同盟を締約するに於て、一層其の利益を收め得べきを發見するなるべし。思ふに實業界の神經は、業に已に自由競爭の緊張のために、疲廢を感じつゝありて、安全確實を欲する人類の欲求は、玆に產業上の組織を驅りて、之を變化し變轉せしめつゝあるの重大勢力の一たるに至れるものとす。

而して產業組織の改造にして已に成り、且つ一國內の市場を獨占し得るときは、海外より來る競爭の危險は、大いに其の邦國の地理上の地位によりて決定せらる。唯々或る產業が、恰もマンチェスターの漂布業及びブラッドフォードの染色業の如く、必然的に或る一地域に從屬する場合には、全く問題外たる觀あるのみ。而かも競爭にして仍ほ可能ならんか、即ち國際的協約を結び、依て以て之を回避し得べけんなり。

近比、或る一著述家は、獨占的特性を具有す

るの十八の大合併若くは結合企業の一表―詳言すれば、其の各々は一重要商品又は數種の重要商品の販賣竝に賣價を支配する、結合企業の一表を編製したり。就きて見るに、そが英國鐵道及海運業に於ける競爭の、單なる運賃の夫れより一轉して、設備と便益との競爭に推移せるを指摘し、算入するを過まてり。然るに從來暫くの間は、競爭と獨占とを對照するの慣習が、全然人を謬らしむるものあるを免れざりき。即ち一見完全なる獨占以外に於ては、競爭が仍ほ全然無制限に行はるものたる如く想像せるの、謬想を育ぐゝめるなり。然るに事の實際に於ては、産業界全體に亘りて、今や無制限なる競爭より一層大なる確實に推遷せんとするの運動の頻りなるものあるを見るべし。思ふに産業界の各方面が絶對的なる獨占の絶頂に達することはなかるべきも、さりながら絶對的なる自由競爭は必ずや速かに發見し難きに至るべし。

加之、競爭者數の減少により獨占を助長せんとするの方法、又た猶ほ殘存するの競爭會社に至りては相互に同一條款に落合ひて同盟を結び、以て外部よりする侵略を妨碍し得べきの方法は、實に獨り自由競爭其のものゝ方法に外ならず。かの海運同盟の運賃割戻制度の合法なるを確定したりし、有名なる一八九一年のモーガル事件に於て、大法官ハルスベー卿の謂ひけらく「若し本件にして違法なりとせんか、苟くも取引上に競爭の存する、凡百の商取引の大部分は、亦た均しく違法ならざるべからず」と。換言すれば、今日競爭を制限するの獨占は、スチュワート時代の國家的獨占の如く、外部よりするの官權等に恃むものにあらず、却つて競爭自らの武器を用ゐて競爭を撲滅しつゝあるものなり、競爭を以て競爭を制するものなりとす。

予の斷ずる所に從へば、最近數十年間に於て自由競爭の制限若くは其の廢止の方面に向ひ流るゝ顯著の傾向たる、決して非社會的勢力の朝生暮死底の結果とは見るべからず。「トラスト」の發生するや、曾て「ギルド」の勃興し、又た近く工場制の出現せると同じく全然、自然的なりとす。そは利潤を得んとする、資本の固有的努力より生ず。又たそは人道の善き側即ち安全を得んとするの相互的幇助及び欲望に傾向するの衝動、竝に其れよりも社會的同情薄き側即ち利益の追求より發生するものなり。予は確信す、其の間欲的恐慌を伴ふの無制限なる競爭の時期たる、吾人の子孫の眼には、必ずや小兒の熱病の如くにも見ゆべきことを。予は又た一層大なる希望を抱きて結合企業の運動を望む、如何となれば予は勞働者階級――渠等にとりては雇傭關係の確實鞏固なるは、勞働報酬額の大よりも一層重要なることなり――に對する最上の希望として「トラスト」の任とする「生産の規律化」regularisation of production を見ざる能はざればなり。生産の規律化は生産過剰 overproduction の機會を少なからしめ、依て以て恐慌の發生を豫防し、亦た失業無職の虞れを輕減するものなり。

然しながら其の有ゆる利益を有するに拘らず、企業の合同又は聯合が、一般消費者に對し若干の消極的危險を齎らすことあるは、明白復た疑ひを容れ能はざるものあり。さはれ是れとても一派の論客が燥急して想像するが如く大なるものにはあらず、蓋し如何に獨占による價格 monopoly prices なればとて、一定の限界は自家利害の觀念によつて自づから定まれるものあればなり。而かも仍ほ其の危險が可なり大なるものあるは否なむべからず。然りと雖も予は信ず、斯かる事端の發現する場合には、國家は茲に容赦なく私企業の間に介入し來たり、斯くて獨占的價格をして或る公共の監督の下に決定せしめ、更に必要の生ずれば、一歩進みて之を支

配するに至るべきこと、恰も今日既に英國政府が鐵道賃率に對して、一定限度を劃するが如きに至るべきことを。されば今ま吾人が爲すべき所のものは、夫れ遂に、近世國家が其の微妙にして而かも結局避くべからざるの任務に應酬し、果して之を完全に遂行し得べきや否やを監視するにあらざるべからず。

五

資本の側に於ける最近發展に係かるの最後の特質は、企業家間に連帶の感情 feeling of solidarity の發生し、斯くて相互幇成し、勞働側の絶えざる要求に對して集合的行動に出づるを目的とするの、組織を鞏固ならしめんとする運動が、盛んに行はるゝに至れることを擧げざるべからず。之が顯著なる實例は、機械製造業者竝に造船業者の聯合會に見出し得べし。夫れ過去に於ては再び三たび、勞働者は雇主に比して一層有力に結合し。斯くて對企業の戰爭に方たりては、箇々の企業家に宣戰し、箇々の雇主を捕へて之に打勝ちたりき。斯かる時代の今や過ぎ去りて跡なしとは、或る一派の論客が惆悵として長大息する所に係かる。曾に將來に於て、全地域に跨がるの一産業に從事する企業家が凡て協同して勞働階級に當たるべきのみならず、亦た全國に亘たるの各種大工業に從する雇主全體が、利害共通の感念 sense of community of interest によりて緊密に織り成され、爲めに全國を擧げて箇々の企業を放任し、そが擅まゝに自己にのみ適合すべき雇傭條件を締盟するを、妨止するほどに、强大なる共同的輿論を成すに至るべきを慮らるゝを見出さゞるを得ざるなり。

恰かも初期の時代に於て、ダーハムの炭坑業者が、他の炭坑業者の同意を經ることなくして同州内箇々の同業者が職工組合又は勞働組合の壓迫的要請に應ずるを許さゞりしが如く、近比に至りて、機械製造に從事するグラスゴーの企業家連は、ベルファストの同種企業家團と共同の行動步調を維持せんが爲め、に已に勞働者が要求せる條件を容るべく内議の求せるものありし後ちに至るも長がらく、工場開鎖 lock-out を繼續したりしを見るべし。

斯かる雇主側の利害の連帶感念たる、明かに暫時、勞働組合が其の直接目的を實行するを妨碍することとなる。然りと雖も更に氣宇を宏濶にして觀察すれば、そは一見判明するが如く曾に勞働側に於ける同樣の傾向に對する自然的應答たるのみならず、仍ほ亦た多數の場合に於て更に來たるべき産業上の平和の方向への進步を促がすの、必須の豫備條件たるべし。有名なる倫敦繫船船渠に於ける勞働紛爭が、辛じて二年以前に解決せられたるに考ふるも明白なるが如く、右の謂はゆる産業上の平和 industrial peace を齎らす道程に横はるの大障碍は、曾に勞働組合側の極端論者存するのみならず、同時に亦た自ら箇人として未だ盟約せざりし企業家聯合會の決議に從ふを肯んぜざる、比較的小企業家に於て見出さるべきなり。

見よ、社會は今や傷たましき步調を運びて、企業家に於ても勞働者側に於ても、均しく、産業の團體的組織の完成に向ひて進みつゝあることを。さらば吾人をして姑らく祈らしむる所あれよ、勞働と資本とが、其の裏面にありて社會全般の慶福を防護すべき明敏聰明なる國家と共に、更に一層調和し融合する所あれよと。

世界の創成以來、未だ曾て人類社會に、完全なる箇人主義の行はれたるを見ず。又た予は信ず、世界は亦た永久に完全なる社會主義を見ることあらざるべきを、蓋し利己的感情は其の社會的感念と共に人性に於ける永久的要素を形ち造くるものなればなり。されば社會は各時代に適合する、此の二者の協働的妥協を創成するの

ハッチェック教授の獨逸帝國議會論

村田岩次郎

「本篇は Deutsche Juristen-Zeitung, Nummer 15-16 (1915) に掲載されたるハッチェック教授の（大委員會としての帝國議會）を譯したるものなり。（註）とあるは總べて譯者の任意に加へたるものと知られ度し

目下の戰時狀態に於て將來の媾和條件に關する意見を發表し得るや否や？異論の存する所なり。勿論一般の公衆は此の問題の解決に關與する能はずと雖も、帝國議會は今や何時なりとも此の點に付て政府と意見を交換することを得べし。帝國議會には戰費を協贊するの大任あり、人民を代表し、人民に代りて政府に其の意見を述ぶることを得。政府は帝國議會に信賴することに依て將來の媾和條件に對する重大なる責任を避け得べきなり。帝國議會をして此種の意見を發表せしむる爲めには全院秘密會議を開けば可なり、即ち大委員會としての帝國議會の會議を開くに在り。議會議事の報告、從て其一般的告知は（帝國憲法第二十二條第二項の規定に依れば單に公開の議事のみ自由に報告せられ得るものなれば）之を自由に爲すことを得ず。（註一）左はあれ吾人は今や一つの難問に遭遇せざるを得ず、何ぞや？帝國議會の秘密會議は法律上是認す可きや否やてふ問題即ち是れ。

（註一）Wahlheitsgetreie Berichte über Verhandlungen in den öffentlichen Sitzungen des Reichstages bleiben von jeder Verantwortlichkeit frei. 帝國議會の公開議事に關する眞實なる報告は一切の責任より自由なり。

上

凡そ英吉利の議院法を研究するものに取りて所謂全院委員會なる制度並に其の實際的意義の認識程困難なるはあらず。此の全院委員會は全員の會議と云ふ外に委員會として果して何等の目的を有するや？（註二）實際的の英國人は獨逸人の如く單に委員會に於てのみ秘密會議の必要を認むるにあらず、更に一歩を進めて下院全員の會議に於ても秘密會議の必要を明かに認めたる。全院會議は其の職務の上より見れば財政並に豫算に關する問題を審議し、第二讀會の後議案審議を爲す以外に以前には高等政治並に涉外事項をも審議したり。近時此種の問題は特別の委員會に於て討議せらる。此の英國の全院委員會に似通へる制度を大陸に求むるに所謂全院秘密會を擧ぐることを得ん。是に於て乎我が帝國憲法は帝國議會の秘密會議を承認せるや否やの問題を生ず。而して此の問題たるや從來ドクトル論文の題目たり、今や前言の如く重大なる意義を有せるなり。帝國議會の公開議事についてのみ規定せる帝國憲法第二十二條の存する他